

講義科目名称： 看護理論

授業コード： 6610000200

英文科目名称： Nursing Theory

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2学年	2単位	必修
担当教員			
◎岡村典子			
添付ファイル			

授業種類	【開講】 後期 【授業時間】 30時間 【担当教員】 【氏名】 ◎岡村 典子 【研究室】 216 【メールアドレス】 norio@niigata-cn.ac.jp 【本学の科目区分】 基盤看護分野 【DP1】 ◎ 【DP2】 ○ 【DP3】 【DP4】 【DP5】 【DP6】 ○
------	--

到達目標	1. 理論・看護理論とは何か、並びに看護理論の構成要素・種類、看護理論の意義・重要性について説明できる。 2. 分類別に代表される看護理論家について、到達目標1と照らし合わせながら説明できる。 3. 自己の看護実践と関連させ、看護理論の実践への適用の有用性について説明できる。
------	--

授業概要	高度な看護実践および看護学の考究の基盤となる看護理論の構成要素、種類とその発展過程、評価の枠組みについて理解する。また、代表的な看護理論の概念、特徴を明らかにし、理論と看護実践のつながりについて理解する。さらに、本科目で学んだ看護理論を用いた事例分析を通して、実践への適用の有用性を検討する。授業は、講義に加え、学生によるプレゼンテーションとそれに基づくディスカッションによって展開する。
------	--

授業計画	1 授業内容 授業形態：講義 学修課題：「授業ガイダンス」「理論とは何か」「看護理論の意義・重要性」 学修内容：・理論とは、看護理論とは、 ・看護理論の構成要素 ・看護理論の看護実践・教育・研究における意義及び重要性 備考：岡村 2 授業内容 授業形態：講義 学修課題：「看護理論の歴史と動向」「看護理論の種類」「看護理論の評価」 学修内容：・看護理論の歴史的発展過程 ・理論の種類（広範囲理論、中範囲理論、小範囲理論） ・看護理論の評価における枠組 備考：岡村 3 授業内容 授業形態：講義 学修課題：相互作用指向の看護理論 学修内容：・ペプロウの理論の特徴、主要概念の理解 ・臨床事例への適用 備考：岡村 4-5 授業内容 授業形態：グループワーク 学修課題：システム指向の看護理論 学修内容：・キングの理論の特徴、主要概念の理解 ・臨床事例への適用 備考：岡村 6 授業内容 授業形態：プレゼンテーション・講評 学修課題：システム指向の看護理論 学修内容：・4-5回のキングの理論に関する学習課題の発表 ・理論家の背景・時代背景、影響を受けた学問・理論家 ・理論の定義・機能・範囲 ・理論の焦点、開発過程 ・実践的活用 備考：岡村 7-8 授業内容 授業形態：グループワーク 学修課題：システム指向の看護理論 学修内容：・ロイの理論の特徴、主要概念の理解 ・臨床事例への適用
------	---

	<p>9</p> <p>備考：岡村 授業内容 授業形態：プレゼンテーション・講評 学修課題：システム指向の看護理論 学修内容：・7-8 回のロイの理論に関する学習課題の発表 ・理論家の背景・時代背景、影響を受けた学問・理論家 ・理論の定義・機能・範囲 ・理論の焦点、開発過程 ・実践的活用</p> <p>10-11</p> <p>備考：岡村 授業内容 授業形態：グループワーク 学修課題：ニード指向の看護理論 学修内容：・オレムの理論の特徴、主要概念の理解 ・臨床事例への適用</p> <p>12</p> <p>備考：岡村 授業内容 授業形態：プレゼンテーション・講評 学修課題：ニード指向の看護理論 学修内容：・10-11 回のオレムの理論に関する学習課題の発表 ・理論家の背景・時代背景、影響を受けた学問・理論家 ・理論の定義・機能・範囲 ・理論の焦点、開発過程 ・実践的活用</p> <p>13</p> <p>備考：岡村 授業内容 授業形態：グループワーク 学修課題：ケアリング概念と看護理論 学修内容：・レイニンガーの理論の特徴、主要概念の理解 ・臨床事例への適用</p> <p>14</p> <p>備考：岡村 授業内容 授業形態：プレゼンテーション・講評 学修課題：ケアリング概念と看護理論 学修内容：・13 回のレイニンガーの理論に関する学習課題の発表 ・理論家の背景・時代背景、影響を受けた学問・理論家 ・理論の定義・機能・範囲 ・理論の焦点、開発過程 ・実践的活用</p> <p>15</p> <p>備考：岡村 授業内容 授業形態：講義 学修課題：システム指向、ニード指向、ケアリング概念と看護理論 学修内容：・4-14 回までのまとめ</p> <p>学修課題：トランジション理論の紹介 学修内容：・トランジション理論とは ・理論の活用事例</p> <p>備考：岡村</p>
事前・事後学習	<p>事前学修：既修の看護理論を振り返って授業に臨む。 事後学修：看護理論を活用する際の視点を踏まえ自己の看護実践と関連させるとともに、より良い看護実践について考察する。</p>
評価方法、評価基準	<p>到達目標1、3については、試験60%にて評価する。 到達目標2については、課題資料20%、プレゼンテーションの内容20%にて評価する。</p>
テキスト	筒井真優美編集(2020)：看護理論家の業績と理論評価 第 2 版, 医学書院.
参考図書・資料等	<p>舟島なをみ(2007)：質的研究への挑戦 第 2 版, 医学書院. Barbara J. Stevens 著, 中西睦子, 雨宮悦子訳(1982)：看護理論の理解のために その分析／適用／評価, メディカル・サイエンス・インターナショナル. Gertrude Torres 著, 横尾京子, 田村やよひ, 高田早苗監訳(1992)：看護理論と看護過程, 医学書院. 太田喜久子, 筒井真優美監訳(2008)：フォーセット 看護理論の分析と評価, 医学書院. 他、講義内容に応じて適宜紹介する。</p>
受講、課題、資料配布等のルール	<p>欠席の場合は必ず事前に連絡をする。 プレゼンテーションを行う学生は、予め課題に関する資料を配布する。 グループワーク、プレゼンテーションは学生が進行する。</p>
教員からのメッセージ	自己の看護実践と看護理論との関連を理解し、より良い看護実践のために活用できるよう、主体的な参加を期待します。
オフィスアワー	事前にメールにて問い合わせ。